

令和元年度 第2回あま市子ども・子育て会議 会議録

開催日時	令和元年10月11日（金）午前10時から
開催場所	あま市役所 甚目寺庁舎 2階 第1会議室
議題	1) 第2期あま市子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」と「確保方策」について 2) 第2期あま市子ども・子育て支援事業計画【素案】について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	井村なを子、服部章平、大橋円昭、川原史子、渡邊泰江、石村眞一郎、堀江徹二郎、村瀬一生、吉鶴弥生、加藤伸也、木下晶代、石川文代
欠席委員	小林直也、吉田龍宏、竹腰真理子、松田奈津美
事務局	子育て支援課 樋口課長、林主幹、伊藤補佐

会長	<p>ご多忙のところ、あま市子ども・子育て会議にご出席賜りまして、ありがとうございます。第2回目は、子ども・子育て支援事業の量の見込みや、第2期計画の案についてご協議いただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは事務局、よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>今回の議題は2件ありますので、またご審議の程よろしくお願いいたします。</p> <p>今回の会議ですが、あま市審議会等の会議の公開に関する要綱第3条に基づき、公開にて実施いたします。また、同要綱第7条に基づき、本会議終了後、会議録を作成いたしますので録音させていただきます。また、市の公式ウェブサイトにて会議録を掲載することになっておりますので、ご承知おきください。</p> <p>本日、ご都合が悪いとのご連絡がございました小林委員、吉田委員、竹腰委員、松田委員が欠席ですので、ご報告をいたします。</p> <p>なお今回も、事業計画策定業務の委託業者でございます株式会社名豊の担当者が、事務局として同席いたしますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>では、議題に入りますので、進行を会長にお願いいたします。</p>
会長	<p>それでは議題1「第2期あま市子ども・子育て支援事業計画における『量の見込み』と『確保方策』について」、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>(担当者より資料に基づき説明)</p>
会長	<p>何か意見等、もう少し詳しく聞きたいことがありましたらご質問をお願いします。</p>
事務局	<p>この10月から、テレビや新聞報道等でご存知の方もいらっしゃると思いますが、幼稚園や保育園等の利用料無償化が始まりました。この無償化の関係は、アンケート調査でも若干聞いていますが、説明の中で申し上げたとおり、今回対象となりますのが3歳以上については全てのお子様、それから0歳から2歳までのお子様については、住民税が非課税の世帯のみが対象です。</p> <p>0歳から2歳までは対象が限定的ではありますが、一応ニーズ量については、0歳から2歳までの利用は現在も伸びつつありますし、無償化の影響により若干ニーズの掘り起こしはあるかなということで、利用率を増やしています。</p> <p>3歳以上については全てのお子様が無償化の対象となるわけですが、先ほど申し上げましたが、ほぼ3歳以上のお子様についてはどこかの幼稚園、保育園、認定こども園、あとは認可外保育などがあると思っておりますが、そういったところを利用していると</p>

	<p>のことで、今すでに9割台後半の方がどこかを利用していますので、3歳以上の劇的な伸びはないだろうと予想し、3歳以上については特に利用率の伸びまでは加味していない状況です。</p>
加藤委員	<p>今、0歳から2歳までの片親の割合は、あま市での人数の比率はどれくらいですか。それは把握できていますか。</p>
事務局	<p>把握することはできますが、申し訳ございません、今は0歳から2歳に限った数字としては持ち合わせていません。</p>
加藤委員	<p>親と同居していれば必要ないかもしれませんが、個人で住んでいれば確実に必要になるわけですよね。</p>
事務局	<p>母子家庭などは増えている傾向が見られ、ひとり親の世帯では、すでに保育園等をご利用いただいているところが多い状況です。特に母子世帯では収入が低い現状もあって、年収が少なく住民税非課税世帯であり、かつひとり親の場合はすでに保育料も無償となっております、比較的孩子を預けて親御さんが働きに行っている世帯が多いため、無償化による大きな伸びはあまりないかと思っています。</p>
加藤委員	<p>逆に言えば、パーセンテージが本当に今の9割、3歳から5歳の割合と同じぐらい、片親はそこまで働いているのかどうかだけは確認しておかないと、その率でパーセンテージがころっと変わってしまうわけでしょう。</p>
事務局	<p>3歳未満児に限定してのひとり親は統計として持っていませんが、今おっしゃいました率については確認してみます。</p>
会長	<p>ひとり親家庭は、要件が60時間就労には当てはまりませんか。いかがですか。</p>
事務局	<p>保育の要件としては、ひとり親家庭であっても60時間以上は必要となります。</p>
会長	<p>どうでしょうか。ほかに質疑もないようですのでよろしいでしょうか。それでは今までの意見を踏まえまして、また事務局をお願いしたいと思います。</p> <p>では次、議題2「第2期あま市子ども・子育て支援事業計画【素案】について」、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(担当者より資料に基づき説明)</p>
会長	<p>何かもう少しお聞きしたいことなどありましたら。どうでしょうか。</p>
加藤委員	<p>昨年もやっていましたが、このアンケートのパーセンテージ、1,500通出して814件で約54%というのがあったではないですか。その今後の対策で、やはり逆に50%しかないということは、50%は真逆の回答だということもあり得るではないですか。なので、パーセンテージをもうちょっと60%、70%、75%ぐらいまでに持っていけるような作り込みにしたり、アンケートをもうちょっと簡素化して、見る内容をその人に合った形にして、少しでも資料に全部目を通してアンケートをやろうと思うと20分、30分かかるのを、もうちょっと一目で見て省けるところは省いて、気楽にアンケートを回答してもらいやすいものを作ったり、現状の就学前児童と小学生、実際に子どものいる世帯だけではなく、婚姻届を出したり出産時など本当に未来の子育てを考えるのであれば、そういう人もアンケートに汲むべき内容なのかなということが、すごく気になりました。それによって、このアンケートは本当に今後も生きてくるかなど。</p>
事務局	<p>アンケートの内容については、昨年度の会議でいろいろとご意見を承っていただき、最低限聞かなくてはいけない項目がありますが、より回答しやすくなるような体裁などは、また研究したいと思います。</p>
川原委員	<p>こちらの資料を拝見していて、事業計画案の18ページの不登校児の数がすごくたくさんいたのでびっくりしたのですが、不登校児の対応は学校教育課等の方がされて</p>

	<p>いますが、今不登校児が行ける場所がありますよね。そこは学校教育課の管轄だと思ひまして。不登校児を抱えるお母さんの相談窓口といったものも学校教育課ですか。</p>
事務局	<p>そうです。そういった就学に向けての相談も、今おっしゃっていただいた「ビリーブ」という施設であります。なかなか学校に通えないお子様が過ごしていただける所で、保護者の相談もそちらで承っています。</p>
川原委員	<p>できるだけ切れ目のない支援を考えると、そういうところとの連携はすごく大事な事かなという感想です。</p>
加藤委員	<p>同じページですが、いじめ件数が44件に対して不登校の人数との割合が、いじめだけではないと思ひますが、不登校の比率でいじめが44件しか上がっていないのに不登校が172人いるとしたら、どうなのだろうというのが実際のアンケートのずれというか。子育てと結局学校関係の連携はいろんな意味で難しいとは思ひますが、その内容の実状はどうなのかなというの、今後子どもを育てる親の環境であつたり学童に入れたり、親が面倒を見る時間がなくて不登校になるというの、将来的にはアンケートでも子育ての状態でその問題があつたり不登校になつたりする原因があるとしたら、こういうアンケートも学校とのタイアップによって防止策やその環境を見ることもできるかと思うので、そういうのも何かもうちょっといろんなところで連携してやれたらいいのかなと。</p>
事務局	<p>あくまでこの18ページまでの資料は統計データでして、アンケートからの数値ではないです。実際にいじめ件数や不登校児童生徒数は、所管する学校教育課からいただいている資料を基に表としてお示ししています。確かにこういった不登校児童に対する事業の必要性もあるかと思ひますので、そういったことが今加藤委員のおっしゃいました、教育委員会とも連携を図りながら進めていけたらと思ひますが、今のご意見の中でアンケートと混同しているところがありましたので、こちらの資料については統計データと考えていただければと思ひます。</p>
会長	<p>例えばアンケートだと「不登校です」と言いにくい項目かと思ひますが、私は児童委員をしていまして、見守りのために長期の夏休みなどのときには地域で見守りをしながら、やはり空き家に不登校の子が入り込んでいないかなど、地域でも皆さんでやはり目を光らせたり、そういうことがあれば学校にすぐ連絡したりしています。どうしても表には出てこないです。だから、先生たちからの「今月何日間休んでいますよ」という情報でしかなかなか分かってきません、こういう数字というのは、学校の先生たちも、無断で休まれるとすぐにお母さんたちに連絡したり、どうしてもお母さんが学校の時間よりも早く出ていたりすると、子どもの自己責任というか、行くか行かないかがそこで少しずつ、お母さんは行っていると思うのだけど子どもが行けなかったりすることも、どうしても見えないところがあると思ひます。だから本当に下のところでちょっと見ておかないと、数字の下のところでまだまだ掘り起こすことはたくさんあると思ひます。</p>
堀江委員	<p>教育委員会としてもこの数字が、先ほど言われたようにこの数字は教育委員会から出ますが、前から中学生の不登校は多くて、ある程度そちらの対策等を考えていたのですが、最近は小学生が増えつつあつて、小学生が増えるとそのまま中学生に行ってしまう可能性がありますので、また中学校の方の数も増えてきます。</p> <p>委員会でも毎月定例会がありますが、そのときにこういう不登校の子のデータというのが内容的に審議されるのですが、なかなか多様化していまして、同じ不登校でも本当に人が変われば不登校になつた原因も変わってくるので、不登校だからこうだということが言えない部分があります。ただやはり、パターンのこういうタイプの不登校の子と一回分類したらどうかと、それに対して対応策をかけていったらど</p>

	<p>うだ、ということは今やりかけています。</p> <p>手を差し伸べる方策はいろいろやっていますが、先ほど言われたように、ビリーブという施設が甚目寺観音の南にあります。ただ、そこに来られる子は逆にむしろ数が少ないです。そこにすら来られない子の方が数が多いですから、そういった子たちを最低限でもビリーブに来られるぐらいまでなんとか支援できないか、それから家庭環境もかなり違いますし、今いろんな部屋に閉じこもってインターネットなどでゲームすることで時間を潰してしまう子もいれば、本当にもう部屋から一步も出られない子もいますので、重症な子では本当に親御さんたちも顔を見るのが1日にあるかないかぐらいの子もいます。</p> <p>なかなかその子に合った対応をしていくのが難しいところで、この数にグレーの部分も含めればもっと多くなりますので、何か良い対策を考えているところです。校長様もいますが、現実には本当に多様です。</p>
石村委員	<p>ここに書いてある市のアンケートだけで種類が読み取れるかと言うと、読み取れません。今うちで不登校になりかけている子がいて、指示はしていたのですが、集団で何かをやるのが私は嫌だから学校に行きたくない、今までは我慢してきた子も体育祭や文化祭も我慢してやってきたけれども、もう我慢できないから行きたくないと言う子もいます。</p> <p>親御さんも学校も説得しながらやっていて、うちの場合はビリーブとは別に、学校の中に別の教室を持って、そこに入って勉強のできる方は時間を2時間でもと設けていても、来られないと言います。では担任は何をやっているか。世間一般の方は何も学校はやっていないと思うのですが、その担任はほとんど毎日頑張って家庭訪問をしています。でも行き過ぎるとかえって負担になるから、ご家庭でちょっとこのようにしてもらえないかということもあります。</p> <p>だから今堀江先生がおっしゃったように、多様な部分がたくさんあって家庭的な部分もたくさんあるのですが、一回どこかのお医者さんがテレビの放映で、家庭問題があるから不登校になるとおっしゃったらすごい非難を浴びました。だから何か家庭のせいにはできない部分もあり、家庭環境も非常に大きい部分であるけれども、ここに書いてある数字だけで全てが語れるかということもなかなか難しいです。</p> <p>子育て支援という家庭への支援というのも、ご家庭にも考え方があって、先日ある保護者がわざわざ学校までいらっしゃって、校長先生の不登校に対する考え方はどうなのですかとのことで、1時間か2時間ぐらい話をしたのですが、不登校でその家庭に対して批判的ではないですが、その家庭は近所でも非常にしっかりしている家庭で、当分の間は子どもをしっかり見守っていきたくて家庭で考えているならば、登校意欲を持たせるのに学校も見守ってはどうかというご意見もあって、その家庭はそうしていきましようかということもありますが、総じて言うならば非常に多様です。</p> <p>だから支援という言葉では、家庭に対する支援というものは、学校教育課と学校とそしてこちらと連携しながらどうやってあげるのがいいのかは、まだまだ見えない部分が自分にはあります。</p>
事務局	<p>委員のおっしゃるように、私の所感ですが、家庭との距離のもち方は大事ですし、学校だけでなく子育て支援課と教育委員会と連携しながら、どういった方策がいいのか、本当に学校に限らず社会全体的に見てもニーズの多様化がどの分野でもありまして、そういったニーズに少しでも対応できるような事業、施策を連携して進めていく必要があると考えていますので、またご協力をよろしくお願いします。</p>
堀江委員	<p>もう一つ、18 ページに学校の不登校が出ていて、これはあま市でも今対策を立て</p>

	<p>ていると思いますが、学校を卒業してからもいわゆるひきこもりは続いていきますので、ここが本当にスタートラインであれば実際社会的な問題として考えるのは、学校を出てからずっと家から出ないでひきこもっている子たちの数もあまりデータ的に表には出てきませんが、現実ではかなりの人数がいるのではないかと推測されます。</p> <p>そっちは子育て支援ではないですが、ここの段階の次の段階がいずれ皆さん方のご意見を聞いて、対策を考えていかななくてはいけないことになるでしょうし、当然うちの子もたちの段階でどうしているかということがそこに結びついていくので、そうすると今回それに関することがもう少し大きな問題になっていくのではないかと。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。確かに将来的な懸念もありますので、今堀江委員がおっしゃいましたけれども、早め早めにそういった対策が必要になるかと思います。</p>
石村委員	<p>付け加えて言うなら、ここで話をする意義はあると思います。学校だけでは解決できないことが山ほどありまして、経済的なことも含めた上で。ですから、学校教育課だけでもなかなか難しいです。こういった子育て支援課も含めた上で、先ほどの不登校の子もそうですが、子どもや若者の支援計画も含めた、それはまた別の課が作ると思いますが、そうしたことも包括的に見ていかないと、これからの子どもの成長、社会人としての育成はうまくいきません。</p> <p>だから、あえてここで話し合うことを僕は否定しませんし、それから力を貸していただければ学校にとってもありがたいし、子どもたちにとって、また人口減の中で就労人口を増やしていく意味でもひきこもりをつくらないことも含めた上で、本当にこの子育て支援は意義がある話ができるかと思いますので、きちんとした回答はできませんけれども、この場で学校教育の方も力を注ぎながら進めていきたいと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございます。やはり情報の共有です。地域の皆さんの力で、地元の人たちの力でやっていかないと、一つのところだけではなかなか解決できないと思いますし、本当にその周りの皆さんの目と小さな力でやっていかないと、今言ったみたいに卒業したらおしまいではなくて、そこから人生が始まります。だからどうしてもその地域でいる以上は、一つのところが関わるのではなくて、たくさんの方が関わっていかないと、なかなかそれでも解決できないと思います。けど、その力を借りないと、今言った人とプラスひきこもり、どんどんこもってしまうのは社会現象かと思います。</p> <p>また、本当に皆さんのこういう意見をたくさん持ち寄った場があれば、いろんな意見もそこにプラスしながらやっていってもらえたら、今たくさん委員や教育委員会の方からも出ましたので、課題は一杯ありましたから、それも取り込んで事務局にも取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>それでは、今までのご意見を踏まえて、事務局にお願いしたいと思います。</p> <p>以上で、あま市子ども・子育て会議を閉会いたします。お疲れ様でした。</p>